

概況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成12年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は、北足立市場304日、大田市場310日、板橋市場261日、葛西市場310日、前年より北足立市場は3日減、大田市場は1日増、板橋市場は6日増、葛西市場は2日増となった。

総取扱実績は、数量については部類によって単位が異なるため算出できないが、金額は795億8308万8千円を示した。この金額を前年と比較すると、1.8%（14億5650万9千円）の減少となった。また、1日あたりの取扱高についてみると、2億6409万9千円で前年比2.4%（652万1千円）減という実績を示した。

(2) 部類別取扱高

- ①切花 総取扱数量は8億5370万1千本で前年比3.1%（2598万2千本）増、金額は489億6054万3千円で3.4%（17億4709万円）減であった。
- ②切葉 総取扱数量は6420万枚で前年比1.8%（113万5千枚）増、金額は17億2885万2千円で1.0%（1743万6千円）増であった。
- ③切枝 総取扱数量は2048万9千束で前年比2.8%（55万1千束）増、金額は37億8842万3千円で4.1%（1億4799万5千円）増であった。
- ④鉢花 総取扱数量は2954万5千鉢で前年比5.6%（156万1千鉢）増、金額は88億3264万8千円で1.4%（1億2443万8千円）減であった。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は210万5千鉢で前年比2.6%（5万2千鉢）増、金額は51億1487万6千円で2.5%（1億2495万5千円）増であった。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は994万鉢で前年比3.3%（31万4千鉢）増、金額は41億9697万4千円で4.0%（1億6161万3千円）増であった。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は413万1千鉢で前年比5.0%（19万5千鉢）増、金額は19億215万円で0.2%（466万4千円）減であった。
- ⑧苗物 総取扱数量は366万箱で前年比9.3%（31万2千箱）増、金額は46億5065万2千円で1.2%（5622万2千円）増であった。
- ⑨その他花き 総取扱数量は73万5千箱で前年比1.8%（1万4千箱）減、金額は4億796万9千円で17.8%（8853万8千円）減であった。

部類別平均価格の推移(過去3年)

(単位:円、%)

	切花	切葉	切枝	鉢花	らん鉢	観葉植物	観賞樹	苗物	その他
10年平均価格	68	28	209	324	2,347	443	528	1,398	1,336
11年平均価格	61	27	183	320	2,431	419	484	1,372	663
12年平均価格	57	27	185	299	2,430	422	460	1,271	555
12年対前年比	93.4	100.0	101.1	93.4	100.0	100.7	95.0	92.6	83.7

(3) 市場別取扱高

① 北足立市場

総取扱金額は114億4147万円で、前年比6.9%（8億4354万8千円）の減少となった。

部類別にみると、数量、金額ともに前年を上回ったものではなく、数量だけが前年を上回ったのは、切花、切枝、鉢花、苗物で数量がそれぞれ、1.6%（203万7千本）、4.4%（20万4千束）、11.5%（48万8千鉢）、3.7%（1万1千箱）増、金額はそれぞれ6.9%（5億6587万6千円）、0.9%（516万6千円）、7.6%（1億195万円）減、苗物についてはほぼ横ばいとなった。数量、金額ともに前年を下回ったのは、切葉、らん鉢、観葉植物、観賞樹、その他花きで数量はそれぞれ5.7%（55万枚）、7.2%（2万7千鉢）、6.5%（5万9千鉢）、1.8%（9千鉢）、9.1%（3万8千箱）減、金額についてもそれぞれ6.7%（1725万7千円）、9.0%（7261万4千円）、11.7%（5193万4千円）、6.9%（1805万4千円）、18.9%（1049万7千円）の減となり、特に観葉植物とその他花きは二桁減となった。

② 大田市場

総取扱金額は478億5377万4千円で、前年比1.1%（5億3317万4千円）の増加となった。

部類別にみると、数量がもっとも伸びたのは苗物で数量は15.5%（34万8千箱）増、金額も4.0%（1億2256万円）増であった。切葉、切枝、らん鉢、観葉植物、観賞樹も数量、金額ともに前年を上回り、数量はそれぞれ8.1%（266万2千枚）、5.0%（42万4千束）、7.8%（9万6千鉢）、6.0%（41万5千鉢）、7.2%（19万7千鉢）増、金額も6.4%（6263万円）、7.3%（1億5606万5千円）、6.5%（2億392万4千円）、7.3%（2億1373万2千円）、3.3%（4288万2千円）増となった。切花、鉢花は数量はそれぞれ5.7%（2561万7千本）、4.6%（74万鉢）と増加したが、金額は0.7%（1億9570万5千円）、0.2%（1335万4千円）とそれぞれ減少した。その他花きは、数量12.8%（1万1千箱）、金額16.5%（5956万円）の減少となった。

③ 板橋市場

総取扱金額は109億8165万2千円で、前年比5.9%（6億8357万2千円）の減少となった。

部類別にみると、らん鉢と観賞樹がともに前年を上回りそれぞれ数量7.1%（9千鉢）、19.6%（2万鉢）増、金額5.3%（2008万1千円）、13.9%（919万円）増となり、特に観賞樹については大幅な伸びであった。数量が増加したのは、鉢花と苗物でそれぞれ3.0%（5万3千鉢）、7.0%（1万箱）増、金額は1.0%（575万3千円）、7.0%（1392万3千円）の減少となった。切枝と観葉植物はそれぞれ数量3.8%（11万9千束）、1.1%（5千鉢）減、金額は1.9%（1173万7千円）、1.1%（215万円）の増加となった。数量、金額ともに前年を下回ったのは切花、切葉、その他花きでそれぞれ数量は0.1%（9万3千本）、0.5%（5万3千枚）、23.4%（2千箱）減、金額も7.4%（6億8638万4千円）、2.9%（785万5千円）、29.4%（1281万5千円）の減少となった。

④ 葛西市場

総取扱金額は93億619万2千円で、前年比4.7%（4億6256万4千円）の減少となった。部類別にみると、数量が前年を上回ったのは切枝、鉢花、その他花きでそれぞれ数量1.1%（4万2千束）、4.8%（28万1千鉢）、16.2%（3万8千箱）増、金額は4.3%（1464万2千円）、0.2%（338万2千円）、15.7%（566万5千円）減となった。切花、切葉、らん鉢、観葉植物、観賞樹、苗物は数量、金額ともに前年を下回り、数量はそれぞれ1.6%（157万8千本）、10.3%（92万4千枚）、7.9%（2万5千鉢）、2.8%（3万7千鉢）、2.0%（1万2千鉢）、8.4%（5万6千箱）減、金額も5.7%（2億9912万6千円）、10.2%（2008万3千円）、4.0%（2643万7千円）、0.5%（233万5千円）、13.2%（3868万1千円）、5.9%（5221万3千円）減となった。

（4） 卸売業者別取扱高

① （株）第一花き

総取扱金額は86億9756万5千円で、前年比4.7%（4億2519万円）の減少となった。

部類別にみると、数量、金額ともに前年を上回ったのは鉢花、らん鉢、観賞樹、苗物で数量はそれぞれ10.2%（22万4千鉢）、12.9%（2万2千鉢）、1.8%（5千鉢）、20.9%（3万8千箱）、金額は3.7%（2864万5千円）、7.5%（3329万7千円）、1.6%（237万9千円）、9.3%（2721万1千円）で、大幅な増加となった。切花の数量はほぼ前年並み、金額は7.5%（4億9364万5千円）の減少となった。切枝と観葉植物の金額はほぼ前年並みだったが、数量はそれぞれ5.7%（19万5千束）増、3.3%（1万4千鉢）減となった。数量、金額ともに前年を下回ったのは切葉とその他花きでそれぞれ数量6.4%（46万5千枚）、11.3%（4万3千箱）減、金額は7.4%（1457万6千円）、17.4%（803万6千円）減となった。

② （株）東京花き

総取扱金額は27億4390万5千円で、前年比13.2%（4億1835万9千円）の減少となった。

部類別にみると、数量が前年を上回ったのは切花、切枝、鉢花、その他花きで数量はそれぞれ4.2%（128万8千本）、0.8%（9千束）、12.8%（26万3千鉢）、11.3%（4千箱）増、金額は4.6%（7223万円）、2.7%（321万8千円）、23.4%（1億3059万5千円）、26.1%（246万2千円）減で、特に鉢花とその他花きでは数量は二桁増だったが、金額は大幅に減少した。切葉は数量3.5%（8万5千枚）、金額4.5%（268万1千円）減となった。今回大幅に減少したのはらん鉢、観葉植物、観賞樹、苗物でそれぞれ数量24.0%（4万9千鉢）、9.2%（4万5千鉢）、6.0%（1万4千鉢）、25.8%（2万7千箱）、金額29.3%（1億591万円）、22.9%（5341万7千円）、19.0%（2043万3千円）、21.5%（2741万2千円）の減少であった。

③ （株）大田花き

総取扱金額は253億2020万5千円で、前年比0.7%（1億7512万9千円）の減少となった。

部類別にみると、数量、金額ともに前年を上回ったのは切葉、切枝、らん鉢、観賞樹でそれぞれ数量は11.0%（249万3千枚）、6.1%（32万3千束）、8.2%（2万2千鉢）、11.9%（2万9千鉢）、金額は10.4%（7455万3千円）、10.4%（1億3790万7千円）、5.5%（5804万7千円）、1.3%（198万3千円）の増加となった。切花、鉢花、苗物の数量はそれぞれ5.3%（1703万本）、5.3%（14万1千鉢）、12.5%（3万8千箱）増、金額は1.6%（3億3512万2千円）、1.8%（1792万2千円）、4.3%（1657万9千円）減で、ともに数量は伸びたが、金額は前年を下回った。観葉植物とその他花きの数量はそれぞれ8.8%（8万8千鉢）、39.7%（1万1千箱）減、金額も10.1%（3233万円）、41.5%（4566万6千円）減で、特にその他花きについては大幅な減少だった。

④ （株）フラワーオークションジャパン

総取扱金額は225億3357万円で、前年比3.2%（7億830万4千円）の増加となった。

部類別にみると、数量、金額ともに前年を上回ったものが多く、切花、切枝、鉢花、らん鉢、観葉植物、観賞樹、苗物でそれぞれの数量は6.8%（858万6千本）、3.2%（10万1千束）、4.4%（59万9千鉢）、7.6%（7万4千鉢）、8.5%（50万3千鉢）、6.8%（16万8千鉢）、15.9%（31万箱）、金額は1.8%（1億3941万7千円）、2.2%（1815万8千円）、0.1%（456万8千円）、7.0%（1億4587万8千円）、9.5%（2億4606万2千円）、3.6%（4089万9千円）、5.2%（1億3913万9千円）の増加となった。切葉は数量1.6%（16万9千枚）増、金額4.4%（1192万3千円）減となった。その他花きは数量はほぼ前年並みだったが、金額が5.5%（1389万4千円）の減少となった。

⑤ （株）東日本花き

総取扱金額は67億8148万9千円で、前年比3.1%（2億2027万円）の減少であった。

部類別にみると、らん鉢と観賞樹は前年を上回り、数量は7.7%（9千鉢）、19.1%（1万9千鉢）、金額も9.2%（2601万6千円）、13.8%（899万9千円）の増加となった。切花、切葉、鉢花、苗物はそれぞれ数量2.3%（191万6千本）、2.3%（15万2千枚）、3.0%（5万3千鉢）、7.0%（1万箱）増、金額4.9%（2億5127万1千円）、0.7%（111万6千円）、1.0%（585万7千円）、7.0%（1379万8千円）減となった。切枝と観葉植物は数量3.6%（10万2千束）、0.7%（3千鉢）減だったが、金額は5.2%（1648万4千円）、1.1%（224万4千円）と増加した。その他花きは数量、金額ともに前年を下回り数量4.9%（145箱）、金額13.9%（197万1千円）の減少となった。

⑥ (株)板橋花き

総取扱金額は42億16万3千円で、前年比9.9%(4億6330万2千円)の減少であった。

部類別にみると、観賞樹が大幅に増加し数量62.4%(745鉢)、金額22.6%(19万1千円)増、鉢花も数量3.9%(73鉢)、金額13.9%(10万4千円)ともに前年を上回った。らん鉢と苗物は数量のみ前年を上回り、それぞれ数量は2.3%(351鉢)、49.3%(36箱)増、金額は6.2%(593万5千円)、45.6%(12万5千円)減となった。切花、切葉、切枝は数量2.9%(200万9千本)、4.2%(20万5千枚)、5.6%(1万7千束)、金額10.5%(4億3511万4千円)、6.0%(673万8千円)、1.6%(474万6千円)の減少となったが、特に観葉植物とその他花きの減少が大きく、それぞれ数量63.9%(1861鉢)、31.1%(2201箱)、金額40.5%(9万4千円)、36.9%(1084万5千円)の減少となった。

⑦ (株)葛西花き

1月から3月の総取扱金額は12億5894万6千円で、前年同時期と比較すると5.3%(7090万2千円)の減少となった。

部類別にみると、切花は数量のみ前年同時期を上回り、数量6.1%(104万7千本)増、金額1.5%(1607万5千円)減となった。その他はすべて前年同時期を下回った。切葉数量1.3%(1万6千枚)、金額5.1%(154万8千円)減、切枝数量13.8%(8万2千束)、金額14.3%(794万9千円)減、鉢花数量3.1%(1万5千鉢)、金額15.5%(1549万3千円)減、らん鉢数量14.3%(3千鉢)、金額15.4%(611万8千円)減、観葉植物数量54.8%(6万5千鉢)、金額40.6%(1177万7千円)減、観賞樹数量65.9%(1万9千鉢)、金額35.3%(276万3千円)減、苗物数量11.6%(1千箱)、金額30.5%(903万4千円)減、その他花き数量19.8%(2千箱)、金額41.2%(14万6千円)減であった。

⑧ (株)江戸川花き

1月から3月の総取扱金額は9億7609万8千円で、前年同時期と比較すると3.7%(3710万8千円)の減少となった。

部類別にみると、数量、金額ともに前年同時期を上回ったのは切花、切枝、らん鉢、苗物でそれぞれ数量10.6%(76万2千本)、16.1%(1万5千束)、0.7%(505鉢)、22.0%(2万4千箱)、金額1.3%(496万3千円)、13.1%(310万9千円)、2.9%(299万円)、3.0%(416万円)の増加となった。切葉は数量3.7%(2万6千枚)減、金額2.2%(27万9千円)増であった。鉢花、観葉植物、観賞樹、その他花きは前年同時期を下回った。数量はそれぞれ10.6%(11万4千鉢)、15.7%(2万1千鉢)、16.5%(1万4千鉢)、11.6%(52箱)、金額は13.9%(3504万6千円)、19.0%(1167万7千円)、13.2%(534万4千円)、55.4%(54万2千円)の減少となった。

⑨ 東京フラワーポート(株)

4月から12月の総取扱金額は70億7114万7千円で、前年同時期の(株)葛西花きと(株)江戸川花きの取扱金額の合計と比較すると、4.8%(3億5455万3千円)の減少となった。

部類別にみると、数量、金額ともに上回ったのは鉢花と観葉植物でそれぞれ数量9.6%(40万9千鉢)、4.7%(4万9千鉢)、金額3.7%(4715万8千円)、5.4%(2111万9千円)の増加となった。切枝、観賞樹、その他花きは数量3.6%(10万8千束)、4.3%(2万1千鉢)、17.9%(4万箱)と増加したが、金額は3.7%(980万1千円)、12.5%(3057万5千円)、14.3%(497万8千円)の減少となった。切花、切葉、らん鉢、苗物は取扱高を下げ、それぞれ数量4.6%(338万8千本)、12.4%(88万3千枚)、10.0%(2万2千鉢)、14.5%(7万9千箱)、金額7.5%(2億8801万4千円)、12.3%(1881万3千円)、4.5%(2330万9千円)、6.6%(4734万円)の減少となった。

2. 月別市況

1月

「切花」

取扱数量は前月比 20.2 % 減、前年比 15.3 % 増であった。平均単価は前月比 23.0 % 安、前年比 18.6 % 安となった。

入荷は、遅れていた品目が集中的に出荷されて中旬まで潤沢であったが、下旬は冷え込みとともに減少した。

相場は、入荷の潤沢な中旬までは軟調で、下旬の品薄でやや戻した。

主要品目別では、輪菊は品薄傾向が続いて堅調な相場展開。バラはイベントや業務需要で中値安定。ガーベラも業務需要で動き活発。スイトピーは上旬に荷が集まったが昨年と同単価で取引。チューリップは順調な入荷で上旬から相場は弱く、下旬にやや持ち直した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 27.2 % 減、前年比 6.5 % 増であった。平均単価は前月比 44.5 % 安、前年比 12.8 % 安となった。

入荷は、上旬に集中し、それ以降は昨年並となった。

相場は、一般的に弱含みであった。

主要品目別では、プリムラ類は品目によって極端な安値。サイネリアは入荷が少ないにもかかわらず軟弱な市況。シンビジウム類は年末の需要期に間に合わなかったものが多く、近年にない安値で取引された。

2月

「切花」

取扱数量は前月比 0.9 % 増、前年比 1.8 % 増であった。平均単価は前月比 10.5 % 高、前年比 1.6 % 高となった。

入荷は、上・中旬とも平年並みであったが、下旬は各地で冷え込みが厳しくなり、多少の遅れが出始めた。

相場は、中旬までは保合、下旬は品薄感から高値基調となった。

主要品目別では、輪菊は白色系が業務需要の引合い強く堅調な相場展開。バラ・ガーベラ・チューリップといった洋花類は、ブライダルフェア等のイベント需要により堅調に推移した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 21.8 % 増、前年比 14.8 % 増であった。平均単価は前月比 2.9 % 安、前年比 6.9 % 安となった。

入荷は、昨年2月よりも市が1回多かったため、全体的に増加した。

相場は、一般的に弱含みであった。

主要品目別では、ジュリアンやポリアンタは単価安が響いて昨年の7割程度の取扱金額。ゼラニウムは概ね昨年並の単価で取引されたが、白色系に対する引合いが強かった。カランコエは品質の低下が目立ち安値で取引された。デンドロビウム類は入荷量が大幅に増加したにもかかわらず単価は1割安程度。

3月

「切花」

取扱数量は前月比 7.6 % 増、前年比 1.7 % 増であった。平均単価は前月比 7.9 % 安、前年比 3.3 % 安となった。

入荷は、彼岸需要期に合わせて各品目出荷量増す。

相場は、比較的堅調に推移し、彼岸後は買いが少なく急落した。

主要品目別では、輪菊が沖縄主体に潤沢な入荷があったため上・中旬は中値安定で推移し、下旬には花屋の動きなく低迷した。スプレー菊は軟調。小菊は色によりまちまち。その中でも黄色が低迷した。バラ・スイトピー・チューリップは卒業式等の各種需要に支えられ、上・中旬は安定した相場であったが下旬から低迷した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 17.2 % 増、前年比 2.7 % 減であった。平均単価は前月比 4.4 % 高、前年比 1.0 % 安となった。

入荷は、初旬は少なめで、中旬から順調な入荷になる。

相場は、軟弱な市況が続くが、後半やや持ち直す。

主要品目別では、プリムラ類はどの品種も弱い市況。サイネリアは6寸鉢の市況が弱い。ゼラニウムはスターテル（星咲き）が他の品種よりやや引き合いがあったが、一般的に弱い市況であった。デイルホセカはオレンジ・黄色がまあまあだった。ファレノプシスは月初めに引き合いがあったが、中旬から軟弱な市況。ドラセナ類は大鉢は堅調な市況が続くが、小鉢はやや弱めであった。

4月

「切花」

取扱数量は前月比 39.3 % 減、前年比 6.8 % 減であった。平均単価は前月比 13.8 % 安、前年比 18.0 % 安となった。

入荷は、全国的に作柄が良く順調な入荷であった。

相場は、菊類を主体に軟弱な展開。

主要品目別では、輪菊は白色系の入荷が多いものの業務需要少なく、相場は低調であった。スプレーカーネーションは母の日が5月14日と遅かったことなどにより保合。バラは入荷は安定していたが、中旬以降引き合い弱く低迷。ゆり類は品質が悪いものが多く入荷したため低迷。スターチス類は入荷増えたが需要少なく、品質に関係なく低迷した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 18.3 % 増、前年比 7.0 % 増であった。平均単価は前月比 7.1 % 高、前年比 5.3 % 安となった。

入荷は、月を通しおおむね増加傾向であった。

相場は、中旬までは順調な取引が続いたが、後半やや軟弱気味の相場となる。

主要品目別では、インパチェンスは入荷増も単価を大幅に上げた。カーネーションは母の日に集中する傾向が見られたため入荷は昨年よりも減り、単価は昨年並となった。ゼラニウムは入荷は微増であったが単価を上げた。ベルフラワーは入荷少なく小鉢化傾向が要因で単価を下げた。ファレノプシスは入荷は昨年より増えたが単価は昨年並であった。

5月

「切花」

取扱数量は前月比 23.3 %増、前年比 12.4 %増であった。平均単価は前月比 8.0 %高、前年比 3.6 %安となった。

入荷は、平均気温が平年に比べて低かったが暖地物が潤沢で安定した入荷であった。

相場は、暖地物の入荷が予想以上に多かったため上がらなかった。

主要品目別では、輪菊は白菊の業務需要少なく低調であったが、黄菊は天寿等夏菊を中心に堅調であった。カーネーションは母の日需要に伴い赤色を中心に引き合い強く堅調。バラは各産地順調な入荷であったが、母の日需要の動きは今ひとつ。スターチス類は潤沢感から相場上がらず弱い展開。ガーベラは母の日需要によりピンク・黄色・オレンジの引き合いが増した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 15.4 %増、前年比 13.6 %増であった。平均単価は前月と変わらず、前年比 5.3 %安となった。

入荷は、母の日を中心に例年になく多量の入荷があった。

相場は、母の日を中心とした多量の入荷後、一時価格が安くなったが1週間で立ち直った。

主要品目別では、インパチェンスは昨年より入荷が少なかったが単価は昨年並み。カーネーションは母の日需要により入荷増であったが、単価は昨年並みであった。ゼラニウムは3月からの低価格傾向が続き単価安の取引。ファレノプシスはミニ、ミディーの入荷が増えた。ハイドランジアは母の日を中心に多量の入荷があったが単価は昨年並み。ベゴニア類は母の日も人気上らず低迷が続く。

6月

「切花」

取扱数量は前月比 19.9 %減、前年比 2.4 %増であった。平均単価は前月比 1.9 %安、前年比 1.9 %高となった。

入荷は、菊、バラ、ゆりなどの主要品目は高冷地産地への切り替わりが順調に行われた。

相場は、父の日需要で若干相場を上げたが、月全体を通して引き合いは弱かった。

主要品目別では、輪菊は白菊が業務需要の動き悪く軟調相場。スプレーカーネーションは業務需要も大きな動きなく保合の相場。バラは父の日需要により中旬に単価が急騰した。ゆり類は鉄砲ゆりが上位等級中心の入荷であったが需要がなく相場は伸び悩んだ。トルコキキョウは入荷が安定し相場も前年並の安定相場。デルフィニウムは潤沢な入荷であったが相場を下げた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 36.0 %減、前年比 0.5 %増であった。平均単価は前月比 8.8 %安、前年比 0.7 %安となった。

入荷は、鉢花が前年より若干減ったが、洋らん類、観葉植物が増えた。

相場は、全般的に前年並。

主要品目別では、ベゴニア類が入荷減るものの相場は昨年並。ゼラニウムはピークを過ぎ入荷がかなり減少した。単価も前年より2割程度安い。日々草は鉢生産から苗生産へと移っている。単価は昨年並。ハイビスカスは小鉢化の影響で単価が安い。ファレノプシスは下旬から選挙や株主総会絡みの業務需要中心に好市況が続いた。ポトスは小鉢化の影響で単価が安かった。

7月

「切花」

取扱数量は前月比 14.4 %増、前年比 1.4 %増であった。平均単価は前月比 7.5 %安、前年比 7.5 %安となった。

入荷は、上旬は前年より若干多かったが、下旬は相場展開厳しく荷が減った。

相場は、お盆相場があまり盛り上がりせず、後半は軟調だった。

主要品目別では、輪菊の白系が業務需要少なく単価を下げた。小菊は色のバランス悪く週により偏りがあった。単価はバラバラであった。スプレーカーネーションは各種需要少なく軟調。バラは黄色と濃いピンクに買いが多く、白色系と赤色系は弱い相場展開が続いた。トルコキキョウは入荷は潤沢であったが弱含みの展開。ひまわりは中・下旬に台風の影響で入荷が減ったため、強い相場展開となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 24.4 %減、前年比 7.3 %減であった。平均単価は前月比 8.6 %高、前年比 1.1 %安となった。

入荷は、前年と比べて減少した。

相場は、前年並であった。

主要品目別では、ベゴニア類は高温のため発色・持ちともに悪く、相場は低迷。インパチェンスは安定した取引であった。ハイビスカスは赤色系が安価であった。ファレノプシスは中元・業務需要により入荷が増したが、大輪から中輪(ミニ、ミディー)への生産移行の影響により単価は安かった。スパティフィラム・ポトスはともに入荷が少なかったものの堅調な取引が続いた。

8月

「切花」

取扱数量は前月比 4.4 %減、前年比 1.3 %増であった。平均単価は前月比 12.2 %高、前年と変わらず。

入荷は、お盆需要にあわせて多くの品目が出荷された。又、高温の影響で前進開花したものが下旬以降増加した。

相場は、お盆需要にあわせた出荷はやや強かったが、下旬には前進開花したものが潤沢となり弱保合。

主要品目別では、輪菊は高温の影響で品質の悪いものが多く、下旬以降は荷がだぶつき相場を下げた。スプレー菊は月を通して入荷は潤沢。相場も月の前半は良かった。小菊は主産地の作付けが増加し入荷は潤沢。相場はお盆過ぎから低迷した。ゆり類は鉄砲ゆりの入荷少なく引き合い強かったが、その他は安定した取引であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 19.7 %減、前年比 17.5 %増であった。平均単価は前月比 8.8 %安、前年比 1.0 %高であった。

入荷は、全体的に昨年より大幅な入荷増であった。特に観葉と花苗の伸びが目立った。

相場は、単価は前年並。取引は順調であった。

主要品目別では、菊類はポットマムが前年並の入荷であったが、単価は安かった。日々草は苗としての入荷が多く、単価も前年より高かった。りんどうは高温の影響で出荷が遅れ前年より少なくなったが、単価は高かった。カランコエは入荷単価ともに前年並。ハイビスカスは前年より大幅な入荷増であったが、単価は低迷。ポトスも入荷増であったが、単価は前年並。

9月

「切花」

取扱数量は前月比 21.4 %増、前年と変わらず。平均単価は前月比 7.3 %高、前年比 3.3 %安であった。

入荷は、ある程度潤沢な量があり、前年並みの量はクリアできた。

相場は、上旬までは前月下旬からの軟調相場の尾を引いたが、中旬以降は品薄高の品目が多く見られた。

主要品目別では、輪菊は彼岸需要に対してやや遅れ気味のピークを迎え、軟調な取引となる。小菊は彼岸後品薄感から堅調に推移した。スプレーカーネーションは上旬入荷は減少したが、中旬各種需要に合わせて入荷増、相場は安定していた。バラは中旬に需要のピークがあったが、入荷も潤沢であったため中値安定。洋ラン類は業務需要が増え安定した取引であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 45.6 %増、前年比 3.8 %増であった。平均単価は前月比 1.7 %安、前年比 4.0 %安であった。

入荷は、夏場の高温が影響して9月に増えてくる菊類の入荷が少なかった。

相場は、彼岸を境に弱保合から強保合へ例年のパターンで推移した。

主要品目別では、ベゴニア類は主産地の出荷に波があり、中旬以降需要の高まったときに単価の変動が大きかった。りんどうは様々な品種が出回ったが、買い気少なく低迷。カランコエはポット苗の出荷が増え鉢物自体の数が減ったが、単価は前年並み。ファレノプシスは敬老の日を境に需要が増え、弱保合から強保合に移行した。ポトスは秋に向け徐々に入荷が減ったが、月を通し安定した取引であった。

10月

「切花」

取扱数量は前月比 21.5 %減、前年比 7.8 %増であった。平均単価は前月比 3.4 %安、前年比 19.7 %安であった。

入荷は、自然災害等もなく生育順調であったため潤沢であった。

相場は、業務需要等少なく菊類全般で極端な安値。その他も小売の動き鈍く、まちまちな展開であった。

主要品目別では、菊類は全国的に生育順調で潤沢な入荷であったが、業務需要等少なく低迷。バラはブライダル需要で上旬は高値で推移。中旬以降も中値安定の展開。ストックは順調な滑りだして、入荷増。相場はそれに合わせて徐々に下がった。洋ラン類はデンファレが品質に偏りがあり、弱含みの展開。ガーベラはブライダル需要等で月を通して活発な取引。相場も安定していた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 13.9 %増、前年比 2.7 %増であった。平均単価は前月比 1.5 %高、前年比 2.6 %安であった。

入荷は、前年対比で若干上回った。一般的に小鉢化傾向が進む。

相場は、単価が安く全体的に軟弱な市況が続いた。

主要品目別では、菊類、プリムラ類は全般に潤沢な入荷であったが、単価は低迷。カランコエは入荷少なく単価も伸びなかった。シヤコバサボテンは小鉢の入荷が減り、単価を押し上げた。アザレアはここ数年引き合い弱い取引が続いている。単価は昨年並。ポトスは生産者が減っている傾向が今も続き入荷が減っているが単価は高かった。

11月

「切花」

取扱数量は前月比 14.0 %減、前年比 4.6 %減であった。平均単価は前月比 19.3 %高、前年比 9.7 %高であった。

入荷は、天候不順及び産地の作付減などの影響により減少した。

相場は、ブライダル・宴会など活発な業務需要に支えられ、堅調に推移した。

主要品目別では、輪菊が白菊を中心に品薄感も手伝って堅調に推移した。バラはブライダル需要が大きく、高値の取引が続いた。ストックは中旬以降天候の冷え込みにより生育が遅れ、入荷が減少したが堅調な相場展開であった。洋ラン類・ガーベラも各種業務需要に支えられ高めの相場展開であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 10.4 %増、前年比 1.5 %減であった。平均単価は前月比 19.9 %高、前年比 2.2 %安であった。

入荷は、天候不順等の影響もあったがほぼ前年並をクリアした。

相場は、前月から引き続き軟弱な市況が続いた。

主要品目別では、シクラメンが6寸鉢の一部良品を除いては総じて単価を下げた。ミニシクラメンは混合で色合いの揃ったものに引き合いが強かったが、その他は弱かった。プリムラ類はポットを中心に入荷が増えたが、単価は低迷。シヤコバサボテンは入荷が少なかつたにもかかわらず軟弱な市況が続いた。ポインセチアも軟弱な傾向が目立った。ファレノプシスは入荷が安定していたため、安定した相場展開であった。

12月

「切花」

取扱数量は前月比 45.8 %増、前年比 7.7 %増であった。平均単価は前月比 5.9 %安、前年比 13.5 %安であった。

入荷は、前年と比較して潤沢であった。

相場は、潤沢感から予想以上に下がった。

主要品目別では、輪菊・スプレー菊が下位等級品が多く軟弱な展開。小菊は順調な生育に支えられ中旬頃から潤沢に入荷し、相場は中値で推移した。バラは上旬は入荷少なく単価が高騰したが、クリスマス前の連休には潤沢感から単価安となった。ガーベラは赤品種が品薄で引き合いが強かった。チューリップはクリスマス・年末ともに活気がなく、品薄品種中心で相場が動いた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 6.2 %増、前年比 7.2 %増であった。平均単価は前月比 27.1 %高、前年比 7.1 %安であった。

入荷は、前年と比較して潤沢であった。

相場は、堅調であったファレノプシスなどの一部品目を除き低調であった。

主要品目別では、シクラメンが良品少なく軟弱な相場展開。プリムラ類は品目等に関わらず全体的に割安感があった。ポインセチアは、小鉢物の入荷が増えたが、単価面での苦戦が続いた。シンビジューム類も小鉢化が進み全体に割安感があった。ファレノプシスは順調な入荷に支えられ、堅調な相場だった。